

日本天文学会2017年春季年会
会員全体集会(2017/3/17)

岡村定矩

IAU報告

前回(2016年秋)の報告以来、IAU分科会は2回開催

2016年 10月20日

日本学術会議物理学委員会IAU分科会(第23期第7回)

2017年3月11日

日本学術会議物理学委員会IAU分科会(第23期第8回)

2016年 10月20日 IAU分科会(第23期第7回)

(1) IAUシンポジウムなど

38 for Focus Meetings (旧 Joint Discussion)
36 for Symposia during the General Assembly
10 for Symposia outside the General Assembly

日本人が連絡窓口になって
いるものが一つもない

Tennetでの紹介等が効果を奏していないことについて、

IAUシンポジウムは申し込みが早く、
準備の労力の割にメリットがわかりにくい、
コミュニティーや共同利用機関に積極的に働き掛けなくてはいけないのではないか、
(やることが決まっている国際学会をIAUシンポジウムとして開催する、など)

公益社団法人 日本天文学会	
English	トピックス
会長あいさつ	[2016.03.10] 2015年度日本天文学会各賞受賞理由
学会概要	[2016.02.02] 2015年度日本天文学会各賞について
ご寄付のお願い	[2015.10.22] 梶田教授ノーベル賞受賞特集号公開のお知らせ (2015.11.20更新)
入会案内	[2015.10.07] 祝 2015年ノーベル物理学賞受賞！ 梶田隆章教授 受賞業績の解説
各種手続・書式	[2015.10.07] 祝 2015年ノーベル物理学賞受賞！ 梶田隆章教授
定款・細則・内規	本年度のノーベル物理学賞を受賞された梶田隆章教授（東京大学）は日本天文学会の正会員でいらっしゃいます。梶田教授、また共同受賞なさったカナダ・クイーンズ大のアーサー・マクドナルド名誉教授に日本天文学会として心よりお祝い申し上げます。
名簿	会員へのお知らせ
理事・監事	[2016.05.19] 日本天文学会・休会制度の休会最長期間の延長について
歴代会長一覧	[2016.05.15] 2015-2016年度会期の理事会・代議員総会の日程一覧を更新しました
歴代副会長一覧	[2016.03.22] 年会開催地候補募集のお知らせ
代議員	[2016.03.14] 大学教育の分野別買保証のための教育課程編成上の参照基準（案）物理学・天文学分野
委員会委員・顧問	[2016.01.13] IAUシンポジウムを開催しよう！：「開催のための簡易手引き」の公開
賛助会員一覧	[2016.01.13] 災害救助法適用に伴う会費免除のお知らせ
表彰・助成制度	[2012.12.28] 「公益社団法人 日本天文学会」が発足しました
理事会・代議員総会議事録	
情報公開	
創立100周年記念事業	
欧文研究報告 (PASJ)	

IAUシンポジウム開催のための簡易手引き

(2) 次期のVice Presidentsの候補を日本から推薦する

・IAU執行部より、新しい会員種別「Junior Member」の創設についてアンケート調査が来た。これについてはメール審議で対応し返答した(後述)。

2017年 3月11日 IAU分科会(第23期第8回)

(1) CAP2018の日本開催決定と共催/後援について

・CAP2018 (『世界天文コミュニケーション会議』
(CAP; Conferences of Communicating Astronomy with the Public)

ホスト: 国立天文台 + 福岡市

会場: 福岡市科学館 (2017年10月にオープン)

2018年3月24-28日

・公益社団法人 日本天文学会、天文教育普及研究会、
日本プラネタリウム協議会、日本公開天文台協会、日
本天文愛好者連絡会(共催)、国立研究開発法人 宇
宙航空研究開発機構(後援) (予定を含む)。

日本学術会議へ「共催」を申請することとした

IAU Division C
Commission C2



(2) IAU Vice-President 候補者の推薦

(3) IAU Junior Member (JM) の創設に関するアンケート調査

- > -----
> (1) 対象は PhD Students and/or early career post-Doc researchers in
> Astronomy/Astrophysics.
>
> (2) National Committeeが推薦し、通常の会員と同等の権利を持つ。
>
> (3) 承認は最初の3年間。 終了時には、通常の会員として推薦される。
> ただし、1回に限りJMとして推薦されることができる。
>
> (4) JM提案の動機:IAU活動に関わる若い研究者を増やしたい。
> ジェンダーバランスが良くなるというメリットもある。
>
> (5) JMの数によって国の分担金は影響されない。
>
> (6) JM創設はIAUの最上位規定 Statutes の変更になるので、2018の
> ウィーン総会に提案する必要がある。
> -----
>

メール審議を行い、以下の回答をした(審議で出た意見は末尾を参照)。

- ・ JMの創設に**賛成**
- ・ JMの基準は**post Docのみ**(大学院生は含めない)
(JMと通常会員の権利を明確化すること、等の**付帯意見**をつけた:末尾参照)

・2017/2/17にIAUよりアンケートの結果が届いた。

- ・投票権のあるNational Member (NM) 67ヶ国のうち返答は37(55%)
- ・37のうち創設に賛成が33(89%)、反対が4
- ・賛成33のうち、最終学年の大学院生とpost-docが23、post-docのみが10



ウィーン総会での正式決定には2/3以上の賛成(45 NMs)が必要。
執行部は可能と判断。

- ・2017/5の執行委員会(EC)でStatute, Bye-laws and Working Rulesの改訂案を審議決定。それをNMに回して意見を求める。
- ・2017/12/15までにNMは、regular individual memberとjunior memberの新会員候補者の推薦リストを用意する。IAUへの最終提出は2018/3/15。
- ・これに基づいて2018/8のウィーン総会で投票、新会員の決定。

日本としてどのような基準でJMを推薦するかは5月のECでの議論を踏まえて、次回のIAU分科会で議論・決定する。

(4) 2017 Asia-Pacific Regional IAU Meeting

- 3-7 July 2017, Taipei, Taiwan
- 日本人SOCメンバー: 半田利弘、林正彦、渡部潤一
- Submission Deadline: March 15, 2017



(5) 数学・自然科学研究者におけるジェンダー・ギャッププロジェクト (ICSUとの共同プロジェクト)

Lead Applicant: IMU, IUPAC

Supporting Applicants: IUPAC, IAU, IUBS, ICIAM, UNESCO, GenderInsite

Regional Offices: ROA, ROLAC

Title of Proposal: A Global Approach to the Gender Gap in

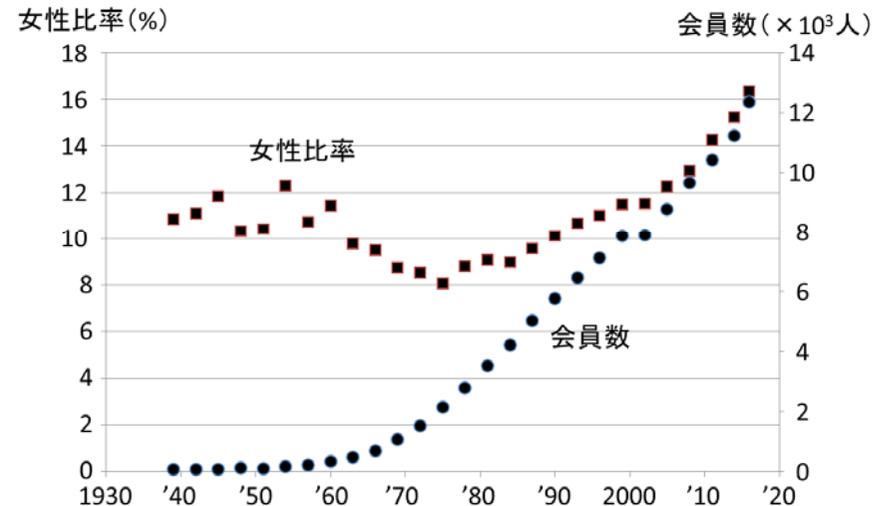
Mathematical and Natural Sciences -- How to Measure it? How to

Reduce it?

ICSUのプロジェクトURL:

<http://www.icsu.org/what-we-do/projects-activities/icsu-grants-programme/?icsudocid=grants-2016-2019>

IAU個人会員数と女性会員比率の推移



補足資料

IAU分科会のメール審議に寄せられたJunior Member創設に関する委員からのコメント

> (c) コメント(ご自由にお書きください。メール審議の参考になります)

提案の趣旨はわからないでもないですが、そのような制度を創設した結果IAUの活性化につながるかといえはとて疑問です。また(2)を考えると、極めて大きな事務的な負担が増えるだけで逆効果にすらなりかねません。したがって、大学院生の最終学年を含めるのであれば「反対」します(つまり、毎年推薦し、しかもその人が会社に就職したりする場合はやめるとか混乱するだけです)。ポストクも同じで、数年後にならないと本当にIAUの活動をする人なのかどうかはわからないままJMの数だけが増えることになりそうです。とすれば現在のままで良いような気がします。

実は個人的にはIAUの活性化をするのであれば、いまのように誰でもかれでもメンバーになっているだけで事実上何をやっているのかがわからない状況ではなく、むしろメンバー大幅に減らした上でその人たちにはつねにそれなりの役割を担ってもらう方がよいとすら考えています。いずれにせよ、今回のJMが活性化になるとは思えません(むしろ逆にJMIに様々な役をお願いするのであれば別ですが、現在の就職状況から考えて彼らにそのような役割をお願いするのは不適切でしょう)。

学生の登録を認めると、会員管理の負担が増えすぎることを心配しています。

> (2) National Committeeが推薦し、通常の会員と同等の権利を持つ。

> ただし、1回に限りJMとして推薦されることができる。

というところで、結局のところJMと通常会員の違うが何なのだろう、ということがよくわかりません。岡村先生ご指摘の2点についてはDivisionの役員になることは、実際上ないだろう、ということからあまり問題にならないでしょうが、むしろ役員選挙に参加することができない、ことをもってJM/会員の違いにするほうがわかりやすいように思います。

学位を持たない天文教育・普及に尽力する方も、準会員ではなく、この種の会員として遇することを検討してほしい

入会が認められた総会の次の総会では、(おそらく正会員になるので)選挙権・被選挙権を付して良い

> 3年後に通常の会員になることが想定されているように思います。そうだとすると、推薦する側(つまりIAU分科会)は、3年後に推薦するに値すると判断できる人のみ推薦するように心がける必要があります。慎重な審査が必要でしょう。このこともありますので、PhD取得前の大学院生を推薦するのはやめておくのが良いと私は思います。

これまでに参加したIAU総会やシンポジウムなどにおける大学院生やポスドクの方々からは、IAUメンバーになる利点が見えないという意見がありました。履歴書には書けますけれど、それ以外には、特に若手研究者にはあまり利点がないと思われれます。これが総会に付随するシンポジウムなどの科学集会には出席するけれども(非会員でも参加できる)、総会やビジネス会合に出席する若手が少ない理由です。そのような現状の中で、「権利は与えるが義務は課さない」JMを創設しても若手にとってJMIになる利点が見えないと思います。将来に不安を抱える若手にとって有益な活動をIAUが率先して実践し、その実践に参加するためにはJMIになる必要がある、などということが起きれば話は別ではないかと思えます。

JMの権利は通常の会員と同様、と岡村さんも書いておられるのですが、権利はあるけど義務はないという解釈をしておられる方が複数ありますね。権利だけでなく義務も当然含まれるというのが、IAU事務局の提案です。ただ指摘もあったように、権利義務についてももう少し明確にすること、それとJM(および会員も)になるメリットを明示すること、が必要と、私も思います。なお私は、日本の現状ではさほどではなくともJMの設置がメリットになる国も多いと思っていますし、日本における世界状況から遠い意識状況も変わっていかねばと思います。若手の国際意識を高める努力が必要です。

付帯意見

Please add your own comments and suggestions

====>

(1) We propose that the right of JM be explicitly stated rather than just saying 'The Junior Member would have the same rights as the Individual Members.' It would be important to decide whether or not the JM has eligibility for

P/VP or steering committee member of Commissions and Divisions, or a member of Executive Committee and its associate Committees, although this is unlikely to happen.

(2) Japanese individual members are quite a few. However, we understand that Japanese members who are making a large contribution to IAU business/activities are not many recently. We have been working to improve the situation.

Considering the present situation, we are reluctant to propose Junior Members unless he/she is strongly interested in IAU activities.

(3) It is useful that the merit of being a JM (and also an ordinary member) is made more visible.
=====

日本天文学会ホームページ

IAU関連のお知らせ

- [2016.09.15] [2016年秋季年会会員全体集会におけるIAU報告](#)
- [2016.03.15] [2016年春季年会会員全体集会におけるIAU報告](#)
- [2016.01.13] [IAU Symp. 開催のための簡易手引き](#)
- [2015.09.10] [2015年秋季年会会員全体集会におけるIAU報告](#)
- [2015.03.19] [2015年春季年会会員全体集会におけるIAU報告](#)
- [2015.01.25] [2015年1月25日代議員総会におけるIAU報告](#)
- [2014.12.12] [惑星系命名の支援サイトができました](#)
- [2014.09.15] [2014年秋季年会会員全体集会におけるIAU報告 / IAU惑星命名について](#)
- [2014.03.26] [2014年春季年会会員全体集会におけるIAU報告](#)
- [2014.01.28] [2014年1月26日代議員総会におけるIAU報告](#)
- [2013.09.13] [2013年秋季年会会員全体集会におけるIAU報告](#)
- [2013.03.25] [2013年春季年会会員全体集会におけるIAU報告](#)
- [2013.02.24] [2013年2月24日代議員総会におけるIAU報告](#)
- [2013.02.24] [特集「IAUとの関わりを考える」\(天文月報2010年11月号～2011年1月号\)](#)
 - 1. [会員数3位の大国に](#)
 - 2. [IAUの戦略プラン2010-2020](#)
 - 3. [2009年リオデジャネイロ総会報告](#)
- [2012.10.29] [第28回IAU総会報告](#)
- [2012.03.17] [IAU会員氏名一覧表 \(チェック用\)](#)
- [2012.01.13] [IAU会員名簿情報更新のお願い](#)

学術会議の報告